

ブルンジ月報（２０１９年６月）

主な出来事

【内政】

- ２１日、ブルンジ国家独立選挙委員会（ＣＥＮＩ）は、ブジュンブラ県とブジュンブラ市を選挙本部に認定した。
- ２８日、ＣＥＮＩは、２０２０年の選挙スケジュールを発表し、大統領選挙は５月２０日に実施予定である旨発表した。

【外政】

- １４日、チセケディ・コンゴ（民）大統領がブルンジを訪問した。
- ２５日、人権・社会問題・ジェンダー大臣は、国連機関、海外及び国内ＮＧＯとの会合を開催した。

【経済】

- １８日、ルレマ農業大臣は、農産物の収穫量が昨季よりも増加した旨発表した。

【その他】

- ４人のコレラ感染者が隔離された。
- ２０日、カメンガ軍病院は、エボラ感染防止対策の訓練を実施した。
- ２７日、保健省とＷＨＯは、４，５００万ユーロを投じた健康改善プロジェクトを開始した。

※以下は、明示したものを除き、ブルンジ・オンライン・メディア Iwacu の報道を取りまとめたもの。

【内政】

・選挙本部都市の認定（２１日）

２０日、ブジュンブラ県及びブジュンブラ市は、国家独立選挙委員会（ＣＥＮＩ）の会議で選挙本部に認定された。カジヒセ（Piere Claver KAZIHISE）ＣＥＮＩ委員長は、２０１８年の憲法選挙時には、２，９１１地区のうち１８０以上の地区で選挙本部がなかったため、２０２０年の選挙を適正に行えるよう選挙本部を設置したと述べた。

・２０２０年の選挙スケジュールの発表（２９日）

２８日、国家独立選挙委員会（ＣＥＮＩ）は、２０２０年中に予定されている大統領選挙のスケジュールを発表し、５月２０日に大統領選挙、立法府及び市議会選挙、次いで、議会上院選挙は７月２０日、区長等の選挙は８月２４日に行うと発表した。

【外政】

・ チセケディ・コンゴ（民）大統領のブルンジ訪問（１５日）

１４日、チセケディ・コンゴ（民）大統領がブルンジを訪問し、ンクルンジザ大統領と会談した。両大統領は、二国間、地域、国際問題などについて協議し、共同声明を発表した。

・ ＮＧＯの活動と政府方針の整合性（２６日）

２５日、ニブヤバンディ人権・社会問題・ジェンダー大臣は、パートナーである国連機関、海外及び国内ＮＧＯとの間で、協力の改善を目的とした会合を開催し、国連機関が、国内、海外のＮＧＯの活動を政府方針と合致させるよう調整することで合意した。

【経済】

・ 農産物の収穫量増加（１９日）

１８日、ルレマ農業・畜産大臣は、これまでの３か月間、２０１８年の同時期よりも農産物の収穫が増加しており、次の農期には２～３倍になる見込みであると述べる一方、収穫量の増加が市場の食料価格を下げていると述べた。また、農家は国内産の肥料を使用しているため、海外から肥料の輸入はしないと述べた。

【その他】

・ コレラ感染者４人の隔離（７日）

６月初め、ブルンジ北西部のチビトケ県でコレラが検出され、感染した４人が隔離された。４人は飲用水へのアクセスがなく、衛生的な水を飲用していない事が原因とされている。

・ マラリア感染者数の増加（２０日）

１４日、ンディクマナ保健大臣は、ブルンジの北部及び東部でマラリア感染者が増加していると発表した。保健省は、すぐに医療施設で受診できない地域に対して、３６０人以上の医療スタッフを派遣したと述べつつ、２０２０年までに６００万枚以上の蚊帳を各家庭に配布すると述べた。

・ 軍病院によるエボラ拡大防止訓練（２０日）

２０日、カメンガ軍病院は、エボラ予防に関する訓練を実施した。同病院の技術班員は、「コンゴ（民）でエボラが流行しているが、両国間では常時、人の往来があるため、対策をしておかなければならない。」と述べた。これに先立ち１４日に開催された会合で、ンディクマナ保健大臣は、コンゴ（民）とルワンダの国境には、医療スタッフが配置され、往来者にエボラの症状がないか確認できる施設が２２か所あると述べた。

・ ＷＨＯとの健康改善プロジェクトの開始（２８日）

２７日、保健省とＷＨＯは、健康改善を意味する「トゥウィテホ・アマガラ」プロジェクトを開始した。同プロジェクトには３年間で４、５００万ユーロが投じられ、９７０万人

が裨益する。このプロジェクトは、リプロダクティブ・ヘルス、ジェンダーに基づく暴力、公衆衛生、緊急時対策の強化などに関して、地方の医療機関を支援する。

(了)